

第349回

我入道の集い 崔先生が参加。韓国の80歳になる芹沢光治良研究家。スケジュール作成、航空券、滞在費など、申し出たが、愛好会に迷惑をかけるという事なので、自費で参加する。21日のお茶の水の先生との関係で遅く行く。6泊7日で来日予定。軽井沢、三吉、芹沢文学館の講演会、一時間予定。演題は、「芹沢先生の命の古里 我入道のあこがれ」故郷ではなく古里の漢字が崔先生の造詣の深さをよく考える。「我入道」のテキストは、芹沢先生らしくない作品。我入道の返事すでに24名来ている。

崔先生の送別会9月20日18時、グランドヒル市ヶ谷で用意してある。

来年3月のテキストは、今までになかったテキストを予定している。静岡の東海人の雑誌に載っているもの。

清書物語は10月完結予定。12月に読む予定。

テキスト 「怒りに胸はふるえて」

司会 平山惟美

資料説明

手話29年6月号 中央公論に掲載。明治35年に創刊。昭和19年改造と共に廃刊。中央公論も生きている。 実質読売が廃刊。

昭和29年私は思いいれがある。

労働争議が多発した。青函連絡船洞爺丸沈没。破防法、教育2法。

執筆動機

中央公論・昭和29年6月号は「政治への痛憤」と題して特集を組み、内外の知識人に原稿を依頼したものと思われる。弱者に対する思いいれなど怒りが読み取れる。原爆に対する怒りなどもサムライの末裔にも見られる。今、こういう評論を書いても何でだろうという不自然さはない。

印象に残った文言

～人間に将来が無くなったら、人間の中の神は死んで、動物だけの生物になってしまうだろう。(49頁下段11行)

～今度の戦争には、人間的な苦悩をした。その人間的な苦悩のなかで、人間の哀れさも知り、愛に徹しなければ、将来平和を来すことの不可能を知った。(53頁下段)

～為政者にとっては、大衆こそ神(天)であるから。(55頁11行)

A

B 29年千葉の田舎から出てきた。東京はまだ焼け野原だった。復興はこれから。住宅に苦労した。権利金など、大家さんと面接。この人と契約していいかという面接。食べ物は当然不自由。移動証明をもらって外食券。90食に対して6～70食。食事は一日二回

にした。五九キロの体重。衣食住でも衣の部分は不足していた。不自由な生活をしていた。学割で映画を見た。自転車泥棒。林芙美子の放浪記を読んでいた。昭和二九年は私にとって暗い時代だった。

C 同じ年で紹介された田村です。二九年は浪人だった。おふくろは先生やって昭和二九年東京に出てアメリカ軍の新聞を配布していた。三、四時間ぐらいだった。新聞は五セントだった。余録をもらった。ピークスに行くとアイスクリームを食べた。これがおいしかった。四谷三丁目の近いところにいた。新宿の焼き鳥キャバレーがあった。そこに夜な夜な出て行く。帰りはタクシーでキセルをやった。私も二九年は思い出の年。吉田茂が首相だった。大雑把な感想を言うと筆が踊っている。中央公論からいされたからこう書かなくてはいけなかったのか。渡邊一夫の書き方も見ると心に残るところがある。個人個人が見極めて選挙をしなくてはいけない。ヨーロッパに帰って間もなくということもあるが怒りに胸がふるえてという所がある。

D 先輩達が卒業したらどうなるか。非常に就職が厳しいとき。私が一年の時の三つ上、昭和六年では何処に就職したか。会社で一緒になった同年の自衛隊員も国立大学をでて自衛隊になった。学生時代は楽しみがないから、随分お酒を飲んだ。石原慎太郎の「太陽の季節」がデビューした。動物に近い生活をした。

E 昭和二九年は一歳なので、この時代に先生が怒りをあらわにしているとは驚いた。明日がない生き方は動物の生き方。人間は存在の不安が無かったらどんなに幸せか。先生の言葉は私達に大きい重しがある。その日その日を残業してその日を生きていくのは動物らしい考え方。昭和二九年に生存の生きている保証があれば幸せになる。フリーターになれば生きていく不安がない。五二年前には先生は修身という言葉を入れた。道徳を入れなくても生きていく安心をもった。今を見ていると安心ではない。それはなぜおきたのだろうか。昭和二九年に新しく自分たちが選んだ政治家。国民を人間として扱っていない。なぜそういうふうな政治家なのだろうか。なぜ人間が腐るのかわからない。

F ニコヨンという言葉をしっているか。労働者は二四〇円という日当。一日働いて一ドルいかない。将来に夢が持てない。新聞社の試験を受けるのは何十倍。原水禁などで政治活動は刺激だった。朝鮮戦争によって景気が良くなった。社会資本にはいかない。

G 動物的な人間が多くなると中国になると書いている。すごく思い切った発言。日当7500円。職安7500円もらえる。

H ニコヨンでだめだと血液を売る。

I

J 1946年からはじまった。ビキニ環礁 マーシャル島 250回ぐらいやっている。

戦艦長門が標的になった実験。アメリカ自身がビキニ諸島を日本軍が軍事施設を持っている、アメリカが知識を持っている。たまたま福竜丸の事件で有名になった。マーシャル諸島は、強制疎開している。被爆したのは、4～50人いた。強制疎開で直撃被爆したものには土人なみになった。そのあと芹沢さんの本を読んだことに何も書いていない。現地の事は書いていない。動物云々は書いていない。IEAの原爆の医者がなにも治療していない。ネバダでは、今は禁止されてやっていない。九五年のフランスには反対抗議した。フランスでもやった。フランス大使館の2, 3等書記官に抗議した。水爆そのものの効果。放射能。エンゲラップ諸島では島が三つない。

K 情報については一般人は知る立場にはならなかった。原爆反対運動は「福竜丸」についてはそこまで気が回らなかった。そういうことだけであって、被害者に関わること。1954年三月に書いた情報である。

L 昭和二九年。中学二年生でした。昭和一九年に疎開して父が心配だから戦後帰れなくて、昭和二七年に東京に帰った。食べ物は食べられたけど借金して米を買っていた。紙芝居が来ていた。一人五円、ソースせんべい一円。紙芝居を後ろから見た。学校もなかなか休まなかった。一日風邪で休んだら主役になれなかった。この本を読んで今でも通用する人間が人間になくなって動物になるとは非常に困難だ。ますます人間が人間でなくなってきた世の中ではないか。日常茶飯事に人殺しがおきている。昔は、人をあやめてしまったら、それなりの動機が有ったのに理由がない。こんな時代になるとは先生は思っていなかった。動物的に生きてきたのだけれどそういうことも端的にわかってきた。代表としての人が考え方がたつ人の考え方が変わってきた。

M この作品は、反戦と戦後の政治家の汚職について二つ感じた。先生の小説に違った目線で書かれている。反戦など一つの世界など戦争の異常さ、残酷さなど書かれていて反戦の訴えを強く書かれている。写真の惨状よりは、現場で見た惨状を見て目で覆いたい。先生らしい作品ではないかと思った。汚職の訴えなど、ひしひしと感じられるものがあった。汚職ではまたかまたかと続く。先生はどう思っているのだろうか。先生は戦前、戦後の海外の生活を見て書いているのだろうけど、五五頁の中国の話に似ていて身の毛がふるえると書かれているのは、鋭い生活だとお思った。60頁は、政治は庶民の生活など、53頁の上、戦後の生活の中で富める階級との差、農地改革は革命的なものではないか。その下、人間的な苦悩の中で会いに行っている。

N 人間が人間らしく生きていけないのは、国家や社会情勢の影響だが、思いやりなど美しいものにあこがれる、人間として生きていく、宗教だけではなく信仰の心など4つ持たなくては行けない。二九年は三宿に住んでいた。娘に美しい心を持っていてほしいとの事で音楽を好きにさせてくれた両親の心に感謝する。

O 芹沢先生の参議院に立候補は。

P 二，三回。社会党。後はそれ以外。

Q ペンクラブから出馬する意向があった。社会党 こうの 一高の同部屋

R 初期愛好会に入っていた。今日久しぶりに出席した。昭和二九年は中学一年。疎開先から三年前に状況。天理教の教会。理科の授業の他に、ギリシャの話など、中学の理科の先生。「長い灰色の線」アメリカの幼年学校の出身者は大統領になる。後日、見るとアメリカ万歳という映画。アメリカに占領されて幸せだった。敗戦直後、民主的にしようとしていたが九年もたつと変わった。

S Tの妹さん。

U NHKテレビの坂の上の家に衝撃を受けた。嶽東大教会の布教師の息子。新聞を見ている二五，六年前に愛好会を知り、電話した。数回で出席しなくなったが、去年十一月頃、もう一度読んでみようかなあとと思って、愛好会に顔を出した。

V ここに言いたい放題。一本道で狂信的な会員もいた。楽しくね。芹沢作品も面白いつまらないを遠慮無く言える会合。あまり買いかぶって来られると思いますと困ります。

W 金井恵子さんはすぐ目に浮かぶぐらい印象に残っている。妹さん、弟さんがここにきていただいて嬉しく思っている。今回のテキストは私は昭和の年代と年が同じ。これを書いて五十年立つのだけれど、今の時代の感覚でこれを理解しようとしたら非常に齟齬が生じるのではないか。私は、読んだ時に一つ一つうなずきながら読んだ。二十代は病気で過ごしていたのでこの時代のことがわからない。これぐらいの年齢の時の事を勉強させていただいた。今の時代の感覚で批判をする事は、いろいろ批判が出来るが、この時代ではなかなか難しい。先生では書けないものがある。今の時代につながるものがいっぱいある。日本の軍国主義がどのようなものであったか、ひとりひとりの人が国に巻き込まれてしまった。昭和二十九年では49頁では現在の医療は高度ではない時代に医者に診せてもどこも悪いところはない、生きがいを与えればいいのだが医者は出来ない。介護保険でも疑問だらけである。この時代を捉える。全部つながっている。アメリカの取った態度は根本的に人種差別であるが、区別があるが、人間の永遠のテーマである。池田総理大臣の言葉があるが今の時代につながることもある。いろいろな視点から日本人自身も反省しなくては一杯ある。外国のことは、その柵に長くいて見たことなので単なる旅行者の目では書いていない。今の時代大変進歩しているが心が貧しくなっていく。年金をもらいながら、戦争を見てきた自分を大変幸せに思いながら、これからの日本を心配している。若い方ありがとうございました。

X 田舎に帰り、米を持って帰って、自炊した。カレーライスとみそ汁は作れる。食べることについては、非常に苦勞したので、女房が作ったものには文句を言わない。

Y 私もこれを読んだことにいろいろなことが浮かんだこと。私にも怒りは胸にあった。八月に教材にしたことがよくわかる。ニュースでも戦争について触れる。そのたびに若い頃を思い出す。今の時代では、動物になっていく。この時先生は現代を憂えていた。私の日本文化を深く考えたことをかいたことがない。態度、言葉使いが悪い。とてもさびしい。文藝春秋の特集で私の愛する日本には、外国人が感じたことが書かれている。教材の前後でとても興味を持った。自分たちの選んだ政治家として書かれているが、刺客、政治の問題などいろんな興味を持った。P 49の最後の方で、原爆で放射能の値だけを気にしている。がっかりする。

八十%の国民に対して手をさしのべていない。

今日こそはせんしゃにとって大衆は神であるということは先生しかかかない。

Z 先輩方の話しをきけない。戦後のビキニについては良く覚えている。先生は良く書いた。すべて正論だと思う。あの頃思い返すと、運が良いとか悪いとかわりあい素直に書いているところがある。(運の善し悪しで現実を容認)

いいかげんなときに八十%の人がいきられない社会は悪い社会。正義の、正論を言う人は、さすが先生。

P 53には理想論ではないか。社会保険制度は一応出来たけど、子ども達が割合安易に怠惰になっている。活力がそがれるところがある。戦後に於いて緊張感があった時向上心が今恵まれる時に逆に低下していく。この事が初めてわかる。朝鮮動乱など思いがけないところで経済が発達したことによって弱い面が出てきた。P 55では動物のままに抛っておけば思わざることがおきるのではないか。既得権者が既得権を奪っていくのではないか。非常に示唆を富んだ本である。

A2 八月の終戦記念日にこれを選んでくれて読むきっかけを与えてくれて素晴らしいと思いました。戦争というものを考えるきっかけにさせていただいた。世の中が戦争に向かっているのではないか。逆回転するのではないか。私達の生活では、現実を見ない。こういうものを残されたという生きていく糧になった。

A3 私が三十数年前に愛好会に参加した時のテキスト。小串氏が司会。今の世界的平和の状況と半世紀前の状況を考えるとこういう感覚が必要だったのではないだろうか。日本の食糧事情も何度もよくなった。このころ戦後の復興に力を合わせた。リーダーはもっと大局的に考える。国際敵視野を広げる。昭和五十三年、このしばらく後、芹沢先生に聞いたことがある。それから十年して黒い雨が出た。芹沢先生のお話を聞いた。黒い雨について二十年立てば資料を集めればあれぐらいのことを書けると話された。その時の五十三年の文学界の時は「一つの世界」を読むように宿題が出た。尾内テーマを取り上げて議論した。あの時はまだ戦争の後。いろいろな作品が紹介された。やはり日本の後進性が問題になった。世界的にリードするようになった。世界はまだまだ複雑になっている。文春新書でなぜジョンウエインが死んだか。アメリカの俳優は死亡率はガンで高い。死の灰でガンになる。アメリカの半分にガンでなくなった。原爆が落ちてから六十年たつが問題が新しく起きてくるのだと感じた。

A 4 私これ読んで、昭和二十九年小学校六年、学校に行つて原爆の「原爆乙女」の映画を見た。こんな恐ろしいものがある、怖くて怖くて、見る事が出来なかった。広島が東京にケロイド状のものを見た。チェルノブイリを見て今でも怖い。私の場合、将来がない場合は人間の運命を心の中に置いておきたい。「人間の運命」を知っていたから心の大切さを知ることができた。

A 5 北朝鮮が核実験の準備をしている。昭和二十九年小学校六年。政府が保証しないことなど今でもいろいろある。人間には神と動物が同居している。生物とはなんぞや。ウイルスは生物だと言われているが、言葉とはきってしまうもの。北海道の漁船の問題もいろいろなことに通じる。彼らは日本人を人間と見るのだろうか。日本は曲がり角に来ている。

A 6 二点だけ。一点は、光クラブがあつて、詐欺を起こす事件がある。前年。造船疑獄があつて、佐藤運輸大臣に関わり指揮権。個人的な交流関係でP 5 0で特派員は松本重治ではないか。人間の運命のMではないか。東大二期下。上海について赴任した話がある。彼が蒋介石と交渉していたが、近衛は相手にしないといていたが、ルートを探していた。松本氏は工作資金を持って芹沢氏が怒っていた。こういう例があつたのではないか。芹沢さんの交流関係でP 5 5でキャバレーについて、歴史哲学者 レモアロンはパリ大学の社会学部に当時いた方。アロンは芹沢の学問をいやがってマックスウエーバーの社会学を勉強。二人の接触があつたらしい。芹沢先生の小説の中に出てこない。レモアロンがこの前後に来日記憶がないが、二人に出てこないところにポット出てくることに興味を持った。経済学と社会学が重ねて来るところがある。フランス学派とドイツ学派で違う立場になつた。こういうところにポロツと出てくるおもしろさがある。当時フランスに行った人は子ども三人おつたらゆうゆうクラしている。親ははたらなくなる。

A 7 怒りを文章にして伝える手段がある。怒りを文章に出来ない人達はかわいそう。植民地は人間を人間として扱えない。アロン氏は捕虜収容所で日本人を人間として扱わなくなつてきた。この時代の中国人は字が読めない。

原爆の子ははやつた。中学一の私は洞爺丸や指揮権発動の記憶がある。岡崎外相は抗議しない。スパイの嫌疑もあつた。原爆の日本が一番被害を受けた。どうして日本が原爆をあびたか、鳥居タミが書いていた。福祉の事が書いてあるが、福祉は国民が安全に暮らせるのが福祉と考えている。国家は、すごく福祉と思う。国家は軍隊と警察ではないか。安心して暮らせなかつたら福祉なんてあり得ない。五十年前とは違う。平和憲法は何も言われても我慢しないといけない。持つ限り忍耐して我慢しないといけない。外務大臣が替わるたびに方針が変わるのは良くない。核の問題はこれから益々重大になつていく。

A 8 怒りは胸にふれては渡邊和男さんの論文を載せたが、デアメリを挙げている。同じ思想を持っていると思つた。P 5 4下段の方に官僚が来て、スペインの話は正しいことではない、国という単位より個人というものが必要ではないか。渡邊先生と対比して考えるのは良いのではないか。巴里に死すでコインを投げた事を宮村博士がしかる。そういうと所を思い出してほしい。

A 9 怒りが二種類。ビキニの事と、国民に対して。原爆病はPTSDではないか。復員した人やお防さんが復員して大学に行っても勉強できないなど戦争に行っておしまいになるのではないかなど、原爆以外のものでもある。無駄にないものがあるということを知ったことから立ち直って行く。高度経済成長を成し遂げる。戦場を経済に見立て、無くした戦友としてみたくて復習するのではないか。豊かになった今も変わらない。障害者基本法など八十%の国民を見ているように取れない。今の現在では、何でも仕事を与えて、生活を保障するという事になっている。プライドばかり高くて、不平不満を持つだけでは駄目で文子先生が話されたようにして行かなくてはいけないと思いました。

B 2 政治家の一番の不満を訴えている。アメリカによって人民による人民のための政治を期待していた日本人がそうでないことに怒りを覚える。今は汚職は少なくなった。良くこれだけのことが戦後九年間にかけたなあとビックリした。私は戦争に負けて良かったのではないか。戦争をしない国に生まれたことが幸せだと思っています。

B 3 弱気ものの憂いを持つ。ヒューマニズムを訴えている真の作家だと思います。人間性を訴えて語りかけている作家だと思いました。政治の悪さを較べてもまだまだ。先生は良きフランスを知っているので話しをしたいと考えている。島田洋七の映画を見て、日本は難しいと思った。民主主義のスタートラインだと思った。

B 4 私、この評論を楽しく読んだのですが、昨年フランス大使館で大江先生がひざまついて車いすの渡辺さんの奥さんだった。父とは親しくしていた。評論として感銘して読んだ。父の文章ですが、怒りに胸にふるえていた。漁村に生まれた父と船の関係ではないか。フランスで買ってきた本は、漁業に書いたものである。この当時ヨーロッパの福祉は素晴らしいものだと思っていた。スエーデンはほんとに整っている。それが人間のすべでは言えない。満足している中に不満をとうとうと述べている。福祉の進歩した到達点である。現実はどうだったが、今の世界ではどうだろうか。船に乗る人の保証はどうしているのか。危険を冒して蟹を取りに行く。いったいなんだろうか。渡辺和夫については感謝している。